

## 1 認知症当事者の声を聴く（認知症カフェ）

**【概要】**

現在、2箇月毎に認知症カフェを運営しており、令和7年9月8日の認知症カフェでは京都市在住の若年性認知症当事者である下坂厚さんをお招きし交流会を開催した。9月はアルツハイマー月間であり、「こんにちは市役所です」での啓発活動と合わせて実施した。

昨年度は、ケアマネジャーを対象とした交流会を実施したが、今年度は認知症当事者やその家族を対象として実施した。

当日は、インタビュー形式を取り、センター職員が下坂さんにインタビューを行い、その後参加者との交流会を実施した。会場では下坂さんが撮られている展示も合わせて行った。

**◆参加者の感想**

- ・ 下坂さんが認知症だとは思えない。普通の人だと思った。
- ・ 下坂さんの話が聞けて、よい息抜きになりました。勉強になりました。
- ・ 認知症を患う家族に対し少し優しくなれそうです。

**◆特別扱いへの困惑**

- ・ 「認知症だとは思えない」という発言の裏には、「認知症だと何もできない」という言葉が隠れており、特別視されていると考えてしまう。
- ・ 認知症になってもできることは沢山あるし、普通に接してほしい。

**◆早期発見・早期介入の重要性**

- ☆本市においても、認知症当事者の声を聴くことは重要と捉えているが、実情は履行できていない状況である。センターに相談があるケースは、重度化したケースが多いため、早期発見・介入のために、医療機関との連携を始めとした取組を進めていく必要がある。
- ☆認知症への理解促進のため啓発活動が重要であり、認知症サポーター養成講座の開催先の拡大をしていきたい。

## 2 権利擁護事業・成年後見制度の普及啓発

### ① みらいノートの講座について

- ◆今年度よりみらいノートの改定版を発行
- ◆みらいノートの講座は9回行い、またウェルカム事業も含めると170冊程を配布した。また、講座ではみらいノートに合わせて権利擁護や成年後見制度についても参加者へ周知した。
- ◆みらいノートを病院に置かせてもらったり、センターが実施する他の講座でも紹介した。
- ◆健康フェアでセンターのブースを出展し、みらいノートを啓発した。みらいノートを希望した約100名に配布した。

### 【今後の事業展開について】

高齢者に限らず、高齢者の子世代にどのようにみらいノートの周知を図っていくかを検討する必要がある。

### ② 東近江市権利擁護サポートセンターとの連携

- ◆令和6年度よりNPO法人まちの相談室よりそいに中核機関を委託している。
- ◆成年後見制度に関する啓発活動、制度に関する相談及び利用促進、成年後見人等の支援、地域連携ネットワークの構築を行っている。

#### 【今年度の主な取組】

- ・市職員への成年後見制度の周知
- ・成年後見人受任者調整会議の取組
- ・権利擁護に対し課題を抱えるケースにおいて、中核機関に相談を行い、助言をいただき適切なケース対応ができています。
- ・自治会等地域からの要望により、成年後見制度に関する講座を展開できた。
- ・成年後見申立て支援